

2016年3月期 第2四半期 決算発表後 IR 活動での Q&A

Q：全体：上期の営業利益率が、前年上期(2015年3月期上期)より改善した(前年上期：6.0% → 当上期：8.3%)要因は？

A：主に、売上の増加や、変動費率が改善したことによります。

Q：全体：当期の業績予想について、前回(8月)予想を変更しなかった背景は？

A：予想値は見直しのうえ、当下半期の半導体市場の不透明感を勘案した前回(8月)予想値を見込んでおります。

Q：半導体機器事業：第2四半期の受注動向、今後の見通しは？

A：第2四半期の受注は、第1四半期決算発表時点(8月)では、第1四半期と同水準(380億円)になると予想していましたが、若干下振れの367億円となりました。主な受注内容は、フラッシュメモリー(3D-NAND)向けが増加、DRAM 向けが減少、ファウンドリー向けの受注は第1四半期の落ち込みから回復しました。その他の200mm以下のデバイス向けは堅調に推移しています。また、今後の見通しは、半導体市況全般に不透明感はあるものの、大手各社が来年の投資計画を増やされるなど、市場回復の兆しが見られます。今後も、主力製品のSU-3200 拡販やポストセールスの強化を進め、さらなる収益性向上に努めます。

Q：印刷関連およびプリント基板関連機器事業：前年上期よりも売上が増加したが、営業利益が下がった(前年上期：7.0% → 当上期：5.7%)要因は？今後の見通しは？

A：主に製品構成の変化によるものです。

今後は、CTP 装置の入れ替え需要が国内で強いことや、北米を中心に POD 装置需要が順調に伸びると見込んでいるほか、消耗品販売を含むポストセールスの強化などにより、収益性の改善に取り組んでおります。

Q：FPD およびその他装置関連機器事業：前年上期より増収増益となったが、今後も好調は続く？

A：第3四半期以降も大型TV用、中小型用ともに受注・売上が堅調に推移する見込みです。

以 上